

猪の瀬戸の 野鳥

バードウォッチング



▲カッコウ (長谷部 和宏氏 撮影)

ここ猪の瀬戸で、最も良く野鳥を楽しむ季節と言えば、ズバリ、5月の新緑の頃から梅雨入り前の6月中旬くらいがGOOD!?

また、そのBESTコースは、九州横断道路と塚原へ通じる市道との三差路あたりから、市道を塚原方面へ1kmくらい歩くのが、お手軽です。観察時間は、できるだけ車の通りがあまり激しくならない早朝のほうが良い。

この頃は、おなじみのウグイスを始めとして、日本の代表的な歌い手でもあるクロツグミや太くて黄色のくちばしがよく目立つイカルなどが、元気よくさえずっているし、草原や遠くの森の中からは、カッコウ、ホトトギス、ジュウイチ、ツツドリなどの声も流れてくる。これらカッコウの仲間、その声の感じがそのまま名前の由来となっており、わかりやすい(ツツドリは、竹筒を鳴らすように「ボ

ーボー」と太い声で鳴く)。

曇りの日や夜明け前なら、こういった鳥たちの声に混じって、「ゴロスケホッホ」のフクロウ、「ホーホー」のアオバズク、「キュロロロロオー」のその名のとおり、真っ赤なアカショウビンなどとともに「ヒーヒー」と、ちょっと不気味な雰囲気をかもし出すトラツグミなどの声が聞けるかもしれません。

日が少し上がって、湿原のヨシ原にも陽が当たり始める頃には、セッカ、ホオアカ、ホオジロなどがヨシ原をせわしなく移動し、時折草の頂上で歌っている。また、あちこちの林では、コガラ、ヒガラ、エナガ、ヤマガラなどカラ類たちのかわいい姿が目立つようになる。これらの野鳥を楽しみながら、由布岳側の登山口あたりまでゆっくりと歩いて往復しても、せいぜい2時間程度である。

新緑の頃は、下草もあまり茂っていないので、車の騒音を少し避け、林の中の岩や切り株などに腰掛けて、タチツボスミレの可憐な花をながめながら、お昼の弁当を味わうのもよい。

これが、手軽にかつ贅沢に楽しめる、猪の瀬戸「森林浴とバードウォッチング&ランチ」コースである。なお、このお手軽・お楽しみコースの車道は、歩道がないため、ウォッチング中の事故等には、十分に注意してほしい。



猪の瀬戸湿原周辺鳥類生息分布



▲ヤマガラ (長谷部 和宏氏 撮影)